

能楽幸流小鼓

曾和鼓堂社中 全国大会

曾和韶風会

令和三年六月六日(日) 午前九時半始

於 京都観世会館

京都市左京区岡崎内膳寺町四四
TEL 〇七五-七七-六一一四
FAX 〇七五-七六一六〇〇五



<https://www.p-kodou.com>

主催 曾和韶風会
曾和鼓堂

令和三年六月六日(日) 午前九時半始

番組

(地割)

祝言

独調

養

老

曾和鼓堂

浦田良

(剛)番外

独調

清

經

成田奏

豊嶋

番外

独調

鐘

旭

林大輝

大江

淡

路

五段

白坂保行
江後真希

前川光範
相原一彦

深野
田茂井
大江

(剛)独調

花

筐

七五三木縁

豊嶋

独調

屋

島

今橋俊明

田茂井

富士太鼓

キリ

井林久登
杉原里美

相原一彦

橋本忠
橋本光

独調

羽

衣

中川佳子

田茂井

独調

駒

ノ

富田千賀子

橋本忠

独調

羽

衣

橋本麻智子

深野

独調

屋

島

藤井里美

田茂井

勸進帳

井林久登
岩野八重子

相原一彦

橋本忠
橋本光

安宅

井林久登
小西徹

相原一彦

橋本忠
橋本光

独調

田

村

垣見和代

橋本忠

独調

葵

上

國兼弓華

大江

独調

王

井

寺

橋本光

張

良

白坂保行
平岡華江

前川光範
杉信太郎

深野
浦田親

(喜)

惣

神

樂

谷口正壽
田口都志子

前川光範
杉信太郎

独調

羽

衣

平岡慧

田茂井

独調

羽

衣

真鍋陽雅

田茂井

独調

屋

島

平岡煌

田茂井

邯鄲

谷口正壽
尾崎彌生

前川光範
杉信太郎

橋本忠
片山伸

能

正午

猩

々

江崎欽次朗

白坂保行
蓮實えり子

前川光長
相原一彦

後見
大江信行
浦田保浩

蓮實洋一
深野貴彦
田茂井廣道

橋本光史
浦田保親
片山伸吾

※欠番となります。以降、表記時間より30分程前倒しの進行となります。

一調 蟬丸

杉浦豊彦
村瀬克実

独調 羽 衣クセ 片山尚子

独調 駒ノ段 武藤恭子

独調 鉢 木 富田佐代子

独調 三井寺 南出美由紀

一時 老松 白坂保行 坂本美恵 杉前川市和 長

(剛) 八島 井林久登 柴八千穂 相原一彦 種金豊田剛嶋

敦盛 井林久登 野本彌生 相原一彦 浦深浦親田野

胡蝶 谷口正壽 工 杉前川市和 長 浦深浦親田野

(剛) 善知鳥 井林久登 石川千加絵 相原一彦 種金豊田剛嶋

(剛) 薄 谷口正壽 塚原淳子 杉前川市和 長 種金豊田剛嶋

二時 独調 放下僧 森 敏一 浦田親

(剛) 砧 谷口正壽 町田宗隆 杉市和 種金豊田剛嶋

砧 谷口正壽 西村利子 杉前川市和 長 浦深浦親田野

誓願寺 井林久登 川崎敦子 前川光長 相原一彦 橋本志

高野物狂 白坂保行 橋本隆 杉市和 片山方

驚 白坂保行 東野政子 杉前川市和 長 片山方

松虫 井林久登 稻葉秀子 相原一彦 味方

羽衣和合ノ舞 谷口正壽 福本由美子 杉前川市和 長 浦深浦親田野

望月 素雛子 谷口正壽 宮本泰 杉前川市和 長

一調 木賊 片山九郎右衛門 久武和子

(剛)番外 独調 当 麻キリ 幸正佳 金剛

半能

融 河村晴道 江崎欽次朗 谷口正壽 志賀玲子 前川光範 杉信太郎

舞返 思立之出 今向返 後見 田茂井廣道 河村紀仁 分林道治 橋本光史

独調 自然居士

藤井英令奈

橋本忠

独調 船弁慶フセ

近藤笙子

片山

(剛)独調 熊野クニ

朽尾明美

豊嶋

芦刈

井林久登
荒木鈴子

相原一彦

橋本忠
味方林

正尊

谷口正壽
相馬静佳

杉市和

橋本忠
分山林
片山伸

桜川

井林久登
福原弘子

相原一彦

河村紀
林茂井

独調 羽衣クセ

橋口幸枝

片山伸

独調 羽衣キリ

安樂優子

林

三輪

白坂保行
栗原美和

前川光範
杉信太郎

分山林
片山方

草子洗小町

谷口正壽
中川雅美

相原一彦

河村紀
林茂井

願書

白坂保行
土肥夏哉子

相原一彦

深野
林茂井

独調 天鼓

川島裕子

深野

独調 忠度

足利直子

田茂井

独調 天鼓

坂倉摩有子

深野

独調 羽衣クセ

山下一晴

浦田親

独調 駒ノ段

西原淳子

田茂井

獅子

白坂保行
市川太祐

前川光範
杉信太郎

番外
一調 江口

片山九郎右衛門

曾和鼓堂

七時終了
御来聴歓迎(入場無料)

ごあいさつ

曾和鼓堂

この度、全国大会を催しさせて頂くにあたり、諸先生、御社中の皆様に感謝致しております。数年前より企画し、この六月六日を皆様と迎えられます事、喜びは一入でございます。
去る六年前、祖父卒寿の祝いもこの日でございました。
あつという間の本年は祖父七回忌の年となります。
年男でございます私、この道に入り四十数年、本日を境いに初心にかえり、心改たに芸道に進んで参りたく存じます。
全国大会を手向けとし惚ぶ心と共に催しを進めて参ります。

合掌

予告 令和四年 新年打初め 一月

鎌倉ゆかた会 七月

プチ鼓堂・ホームページ <https://www.p-kodou.com/>